

| 教科名 | 科目名  | 単位数     | 授業形態 | 系統 | 履修年次 |
|-----|------|---------|------|----|------|
| 国語  | 古典探究 | 文系3、理系2 | 習熟度  | 共通 | 2    |

|          |   |
|----------|---|
| 教科書（発行所） | 探求 古典探究 古文編・漢文編（桐原書店）                           |
| 教科書以外の教材 | 1 三訂版 完全傍訳やさしくくわしい古典文法（尚文出版）<br>2 必携新明説漢文（尚文出版） |

|                      |   |  |  |
|----------------------|---|--|--|
| 目 標                  | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。   |  |  |
|                      | 学期  | 学習事項   | 学習内容   |
| 学習計画                 | 1 学期  | <b>【古文】</b> 「歌詠みて罪を許さるること」<br><br><b>【漢文】</b> 「画竜点睛」「漱石枕流」<br><br><b>【古文】</b> 「家居のつきづきしく」<br>「これも仁和寺の法師」<br><br><b>【漢文】</b> 「病入膏肓」「先從隗始」 | ・説話を読んで、話のおもしろさを理解する。<br>・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心理を捉える。<br>・故事や寓話に込められた古代中国人のものの見方・考え方について理解する。<br>・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。<br>・文章に書かれている観念性、抽象性の高い内容を、構成や展開に即して的確に捉える。<br>・歴史に残る名場面を迫力ある表現で書いた史伝を読んで、その魅力を味わう。 |
|                      | 2 学期  | <b>【古文】</b> 「中納言参りたまひて」<br>「花山院の出家」<br><br><b>【古文】</b> 「天の羽衣」<br><br><b>【漢文】</b> 「鴻門之会」  | ・随筆を読んで、自然、人間、社会に対する作者の思想や感情を読み取る。<br>・名文と呼ばれる文章を読んで、作者のものの見方や考え方を理解する。<br>・文体や表現の特色に注目して、優れた表現を味わう。<br>・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心理を、話の展開に即して読み取る。<br>・長文の漢文を読むことによって訓読の方法に習熟し、漢文の読解力を高める。                                    |
|                      | 3 学期  | <b>【古文】</b> 「光源氏の誕生」<br>「若紫との出会い」<br><br><b>【漢文】</b> 「論語」「孟子」「荀子」  | ・長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を的確に読み取る。また、「源氏物語」の内容や構成に関心を持ち、平安時代の物語文学への理解を深める。<br>・儒家思想の概要と諸子百家における位置づけを理解する。また、その思想が現代においてどのような意義を持つかを考察する。<br>・日記を読んで、登場人物の行動や心理を的確に捉える。また、回想日記の特質を知って、平安時代の文学への関心を高める。                       |
| 授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等 | 1 提出物・宿題の期限を必ず守る。<br>2 授業中は必ず辞書を持参し、こまめに辞書を引く習慣をつけ、語彙力をつける。<br>3 国語に苦手意識を持っていても、どれだけの努力をしたかが大切である。主体的・積極的に学習へ取り組もう。<br>4 ノートやプリントは板書をそのまま写すだけで終わらせず、説明を集中して聞き、メモを取ったり、アンダーラインを引いたりする習慣をつける。ノートが自分の参考書になるので、後から復習で活用できるように丁寧にまとめる。<br>5 1年間の学習を通して言語感覚を磨き、思考力や自ら進んで表現する姿勢を養おう。 |  |  |

|       |   |  |  |
|-------|---|--|--|
| 評価の観点 | 知識・技能   | 思考力・判断力・表現力  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|       | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。   | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
| 評価の方法 | 定期考査・課題確認テスト（小テスト）・課題レポート・日々題・週課題、授業に臨む姿勢や意欲及び自己評価を総合的に評価します。<br>いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。 |  |  |